

巻 頭 言

別府大学日本語教育研究センター長

松 田 美 香

別府大学日本語教育研究センターは2009年4月に設立され、今年で8年目を迎えます。研究のための『別府大学日本語教育研究』も本号で第8号となります。

取り組みとしては、4年連続で学内の学生支援GPを得、日本語能力試験N1を受験する留学生（ビジネス日本語科目B群を受講しているという条件付き）には、一定の手続きをすれば受験料を返還する取り組みを行ってきました。また、昨年度も「日本語教育講演会」を開催し、今回は岐阜大学教育学部のシニア教授山田敏弘先生をお招きし、「外国人と共生するための日本語文法」と題して、国語教育と日本語教育の文法の乖離を詳しくご説明いただきました、昨年度に引き続き、研究活動も活発です。今回も本紀要には学外の2名の先生方からの御寄稿と学内2名の投稿が掲載されることとなり、研究の面でも安定的に成果が出せるようになりました。

さらに、今年度は第2次オリエンテーションにおいて、5月に日田市立いつま小学校、11月に国東市立旭日小学校での交流会および「美術合同授業」を行いました。県内各地の小学生と本センターの留学生、本学の美術系コースの学生、さらに国際交流に興味を持つ留学生上級生が力を合わせて美術作品を作り上げるという、これまでに無い取り組みでした。いつま小学校では、天瀬町のシンボルである「薔薇の花」をモチーフに、海辺の町にある旭日小学校では「魚の群れ」をモチーフにした作品を準備・制作する過程で、自然に国際交流ができたことは大きな成果でした。

交流を申し出てくださった両校の校長先生をはじめ、関係各位の御協力の賜物と心より感謝いたします。

毎年書いておりますが、残念ながら近隣諸国との関係は予断を許さない状況が続いています。本学での日本語教育が、それらの国と日本との「懸け橋」につながっていくようにと願ってやみません。学習者の個性や可能性を尊重して、その成長に寄与するものでありつづけること。本センターは、そのための努力を惜しまず、邁進していくことを誓います。

最後に、本号の刊行にあたってさまざまな形で御支援をいただいた方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成30年3月31日

